

CITY X UNIVERSITY

大阪市立大学広報
2007.10.1 Vol.1

Special —特集— 「都市研究プラザのグローバルCOE採択プログラム」

Professionals 教員紹介 — 工学研究科 准教授 小島 誠也

Sagesse 教員に訊いてみよう!

Books 市大教員の本

Discovery 意外に知らない市大の姿

Clubs クラブ・サークル

Road to OCU 入試情報

Infomation お知らせ

The Office of President 学長室から

Alumni 卒業生から

創刊号



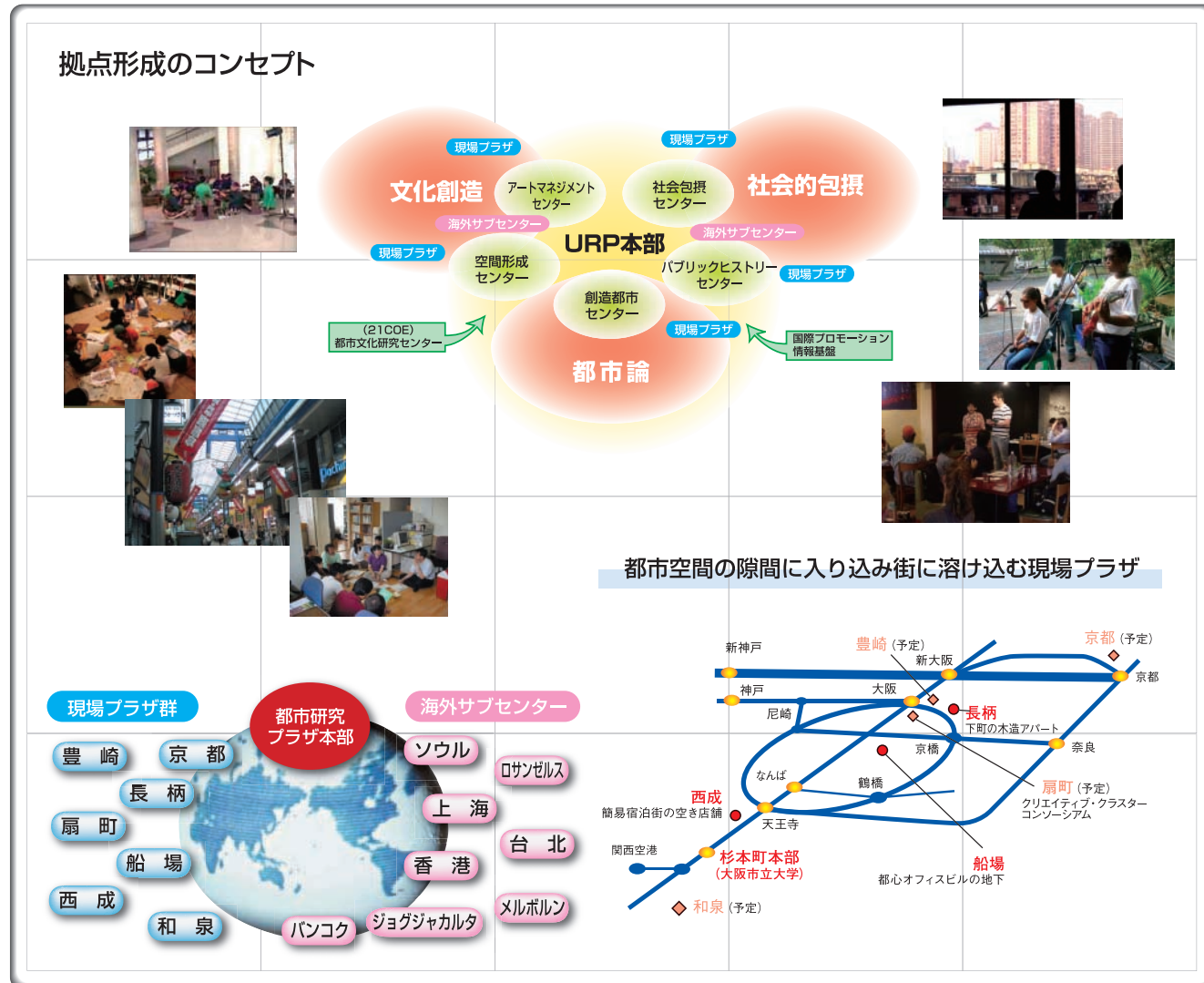
— 卒業生から —

喜岡 浩二
カゴメ株式会社
代表取締役社長
法学部 昭和39年 卒

私が日頃、大切にしていることは「よく遊び、よく学ぶ」、何事も、まず楽しむところから始めたいということです。「遊び」が先に来ているのがポイントです。遊ぶとは、エンジョイするということ。何事も、好きになって楽しもうよ、受け身でなく「自主」で行こうよ、ということ。自分から進んで好きになれば知識欲や向上心が出てきて、もっと楽しくなる。勉強も仕事もそうです。どうせやるなら楽しくやらないと、もったいないですからね。



グローバルCOEプログラムの拠点に！ みんなが出会い集まる広場「都市研究プラザ」



水内先生／大阪府立大学は、日本最大の公立大学として、これまでも都市の研究に力を注ぎ、実績を挙げてきました。都市研究プラザは、そうした実績をもとに立ち上げた、まったく新しいタイプの研究組織です。一つのキャンパスにほとんどの学部・研究科が集まっており、トータルでとらえやすいというメリットを活かして、全学部から人材を集め、型にはまらない新しい都市研究に取り組んでいます。そして、今回のグローバルCOEプログラムは、これまで本学が取り組んできたさまざまな都市に関する取組みのいくつかを都市研究プラザで特化させ強化していくものとなっています。

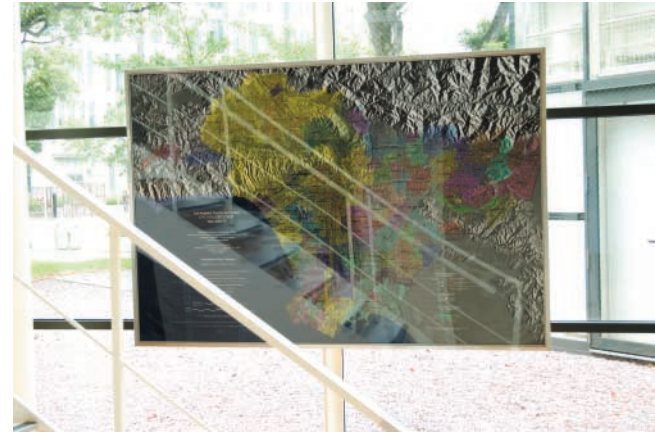
佐々木先生／「都市研究プラザ」という名称からも分かるように、この研究組織は「広場」というイメージに基づいて作られています。大阪や周辺の街・海外の都市にも、小さく移動可能なサテライト施設として、「現場プラザ」や「海外サブセンター」を設けています。スタッフもつねに現場や海外に出て、研究やまちづくりの活動を組織します。プラザはおのずと開かれた研究やまちづくりネットワークの拠点に。つまり「都市」というテーマで、みんなが出会い集まる広場となっているのです。

水内先生／これまでも、本学の文学部では上海やバンコク、ジョグジャカルタなど海外にサブセンターを設けて共同研究を行ってきました。そうした既存の活動拠点を中心に、さらに輪を広げていきたいと考えています。

都市をテーマとして 人があつまる「広場」

大阪市立大学では、70有余年の伝統を誇る「経済研究所」敷設の図書資料と、都市研究に特化した資料を有する「都市問題資料センター」をもとに、平成18年4月、新たな都市研究組織「都市研究プラザ (Urban Research Plaza)」を開設。この都市研究プラザを拠点としたプログラム「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」が、文部科学省の平成19年度グローバルCOEプログラムに採択されました。

そこで、このプログラムで都市研究プラザがめざすものについて、所長の佐々木先生と副所長の水内先生にお聞きしました。



また、各教員がフィールドワークの現場として持っていた施設も、現場プラザとして活動を充実させていきます。

佐々木先生／これからは、従来の行政が核となるガバメントではなく、行政や市民、企業などが一体となって問題解決をめざすガバナンスの時代。市民運動や公共的な課題解決に向けて活動している人も数多くいます。そうしたガバナンスを体現するものとして「新しい知の創造の場」が大事であると考えています。

水内先生／市民グループと一緒にあってプロジェクトに取り組むという、日本でここだけにしかない、やんちゃなスタイル。しかし社会的な貢献力はあります。特に今回のグローバルCOEプログラムでは、積極的に地域と関わる実践活動を通して若い人材を育て、行政と市民との中間的な組織として、都市を動かすシステムを再創造していかうと考えています。

世界に誇れる街として 大阪の街にブランドを



水内先生／大阪市と海外の都市を比較して新たな都市論を展開していくこともグローバルCOEに採択されたプログラムの目的の一つです。そこで私達は、大阪の街にブランドを付けたいと思っています。もっと大阪市民が誇れる街にしたい。そのためには、大阪府のなごりのある発想が必要です。例えば上海や香港、ソウルといったグローバルシティは、大阪府ほどの面積を擁していますよね。それくらいの規模で考えると、大阪にも多様性が出てきます。そういった広い視野を持って、都市研究プラザを大阪、ひいては関西の知的ブランドの集積ポイントとしていきたいのです。ホームレス支援活動も、ここにしかないユニークで貴重な活動ととらえてみたら、大阪の見方もがらりと変わります。「大阪にもちょっと箔をつけへん？ もうちょっとスマートにしてみない？ 創造的な活動をしてみない？ 見えないものを見てみない？」ということ、ここから始めたいですね。

ネットワークとアートが 新しい解決策を生む



佐々木先生／現場と理論と政策という問題は、常に緊張関係を保ってバランスよく取り組んでいかなければなりません。現場などの外へ向かうだけでなく、学問にフィードバックして再確認することが大切。そこで建物と一体化させ、変化に富んだ空間がクリエイティブな雰囲気を出しているのです。記念館内外のさまざまな場所で授業を行ったり、ミーティングをすることで、発想も豊かになります。ここに来られた方が、「なんか、ここは面白いことをしているな」と感じとってくださいれば、私達の取組みの面白さも伝わっていくでしょう。

水内先生／現場プラザも、木造アパートを手作りで改築したり、昔の民家を生活科学研究科の先生や学生達で改築してクリエイティブな空間を作りました。また医学系の先生は公衆衛生の問題にも取り組んでいます。そうした幅広い分野から都市学にアプローチしているのです。頭で理解するだけでなく、身体で体験できるというのも「都市研究プラザ」の大きな特徴ですね。

佐々木先生／市民の皆さんにも、抱えている問題を持ち寄っていただいで、ここで一緒に解決していきましょう。こうした「場」をあちこちに広げているので、そこでサポートできることもあるかもしれませんし、ネットワークが広がるかもしれません。グローバルCOEプログラムの拠点となる都市研究プラザは、市民や都市と、苦しみや喜びや怒りを共有しながら研究するような組織でありたいと考えています。

で我々は、現場と国際シンポジウムなどのネットワークを相互に交流させていきます。それが、都市研究プラザの新しいところ。海外からも評価が高く、一緒にやりたいという声も出てきています。

水内先生／私の専門であるホームレスの問題は、日本では先行のマニユアルがない政策課題ですが、韓国や香港の事例を見ていくと、NPOなど市民達が先導して活動を始めていました。そして今、日本でもさまざまな世代の人々がNPOを作り、支援運動を始めているのです。対立ではなく協働で、確実にものごとを進めようとする動きがあります。学生の間に、こういった現場を見て、いろいろな人と出会い、ネットワークとして広げていって欲しいのです。

佐々木先生／私は創造都市論の研究をしています。芸術の持っている創造的なアイデアや発想をガバメントに取り入れることで、新しい問題解決の可能性が広がると考えています。オフィスビルの空き室に作られた現場プラザ「船場アートカフェ」は、市民が身近にアートを感ずる場として、年間を通して多様なアートイベント、マネジメントを実践。何か立派な施設を作らないとアートに触れられないなんてことはありません。工場跡や造船所跡、病院やお寺といった場所でもいいのです。さまざまなアートがあり、それがネットワークを育んでいく。都市研究プラザの役割は、「場と場をつないで渦にする」ということです。ただでなくだけでなく、渦にしていって、大きな力が生まれます。

水内先生／ホームレスの問題など社会的包摂活動[※]では、対症療法的な支援が中心なのでクリエイティブな部分がないと思っ

グローバルCOEプログラムとは？

平成19年度から開始された文部科学省の「グローバルCOEプログラム」は、大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的としています。

本学の「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」プログラムは、「学際、複合、新領域」分野に申請。この分野には105件の申請があり、本学のプログラムを含め12件が採択されました。

※社会的包摂とは、ヨーロッパで生まれた政策理念。家族や地域社会、企業など、互いを支え合う基盤が崩壊したことで、若い失業者、低所得者、ホームレスなどが増加し、そうした人々を社会から排除しようという動きが顕著に。こうした排除を克服し、社会的弱者を孤立させずに、もう一度社会に参加できるように仕組みを作り、他の人々との相互的な関係を回復、形成していくこと。



*水内先生プロフィール

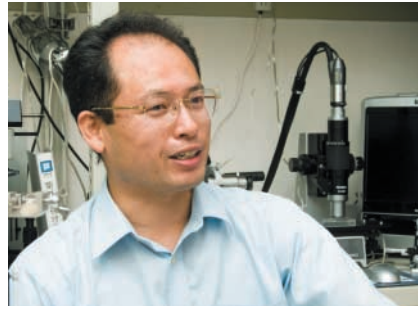
水内 俊雄
URP副所長、都市研究プラザ・教授 兼 文学研究科・教授
専門：都市社会地理学



*佐々木先生プロフィール

佐々木雅幸
URP所長、創造都市研究科・教授
専門：都市経済学

Engineering



■小島先生プロフィール

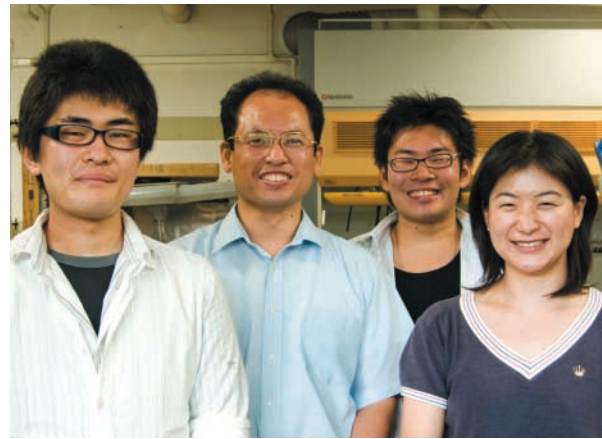
工学研究科 准教授 小島 誠也

大阪市立大学大学院工学研究科応用化学専攻後期博士課程修了
米国アクリン大学や九州大学での博士研究員、助手を経て、2004年より
大阪市立大学大学院工学研究科化学系専攻の助教授に着任。
専門：機能材料化学

<http://www.a-chem.eng.osaka-cu.ac.jp/kobatakelab/>

優しさと厳しさをあわせ持った先生。

小島先生は、普段はもちろん、研究室にいても常に笑顔で気さくに話しかけてくださる、明るくて陽気な先生です。だから研究室内はいつもアットホームな雰囲気、私たちものびのびと楽しみながら研究を行えます。しかし、ひとたびディスカッションとなると、さすが！という厳しい指摘・着眼点に驚かされるばかり。先生の言動からは、研究に対する情熱や好奇心がひしひしと伝わってきます。人としての優しさと、研究者としての厳しさをあわせ持った先生だと思います。



大阪市立大学大学院工学研究科化学系専攻 西 弘泰

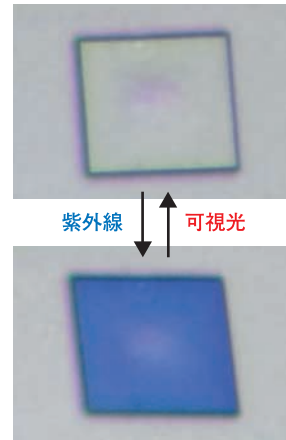


新しい物質をつくるのは楽しく、
思ったとおりに機能したときには感動する

光をあてると色が変化する
フォトクロミック有機結晶

小島先生が研究しているのは、光で色が変わる「フォトクロミック有機結晶」。無色透明の有機分子結晶に紫外線をあてると、みるみるうちに赤や黄、紫などに色が変わっていく。そして色のついた結晶に可視光をあてると、また元に戻る。光によって、分子の構造が可逆的に変化している。

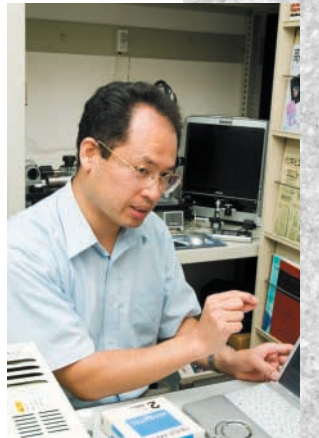
「研究では物質をつくることから機能を確かめることまで行いますが、分子をつくることには手間がかかり研究のうち80%くらいの時間と労力を費やします。しかし、残りの時間で、つくり上げた分子の性質や機能を確かめていくのが実験の醍醐味。新しい機能を目指して、紙の上で分子の構造を設計します。実際に分子をつくり上げたときに、その通りの機能を示すと、やはり感



動します。フォトクロミック化合物は光によって可逆的に色が変化するため、光によって書き換えのできる光プリント材料などに利用できる可能性があります。可視光や紫外線は日常にあふれていますので、表示材料などに応用するには、さらなる研究が必要になります。研究室では、近い将来を見据えた応用研究と、十年、二十年以上も先を考えた基礎的な研究が行われている。

光で瞬時に変形する
結晶を発見

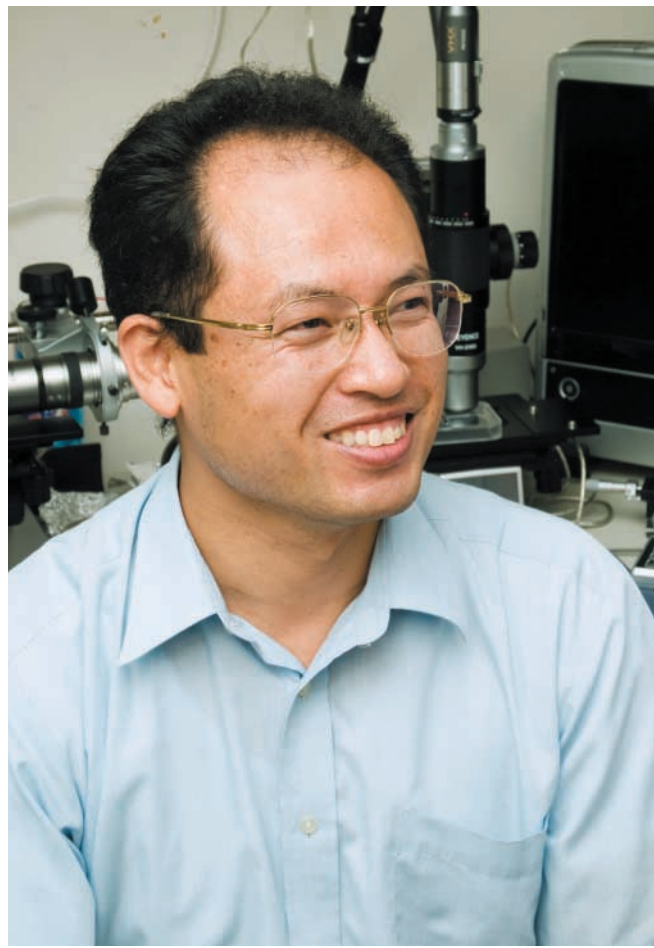
結晶の色が変わるといっても、結晶中のすべての分子が反応しているわけではなく、せいぜい10〜20%程度しか反応していない。「結晶を薄くすれば、効率よく光反応が進行し、結晶自身の性質が変化するのではないかと期待しました。髪の毛の太さよりも小さな結晶をつくり、その結晶を顕微鏡で見ながら実験しました。すると反応は非常に効率よく起こり、紫外線を数十秒間照射



するだけで約70%まで反応が進みました。すなわち、結晶中の70%の分子が構造変化したわけです。同時に、結晶の形が変化するのが見えました。正方形の結晶が菱形へと変化したわけです。このような現象は世界で初めてのことです。これは想定外のことでしたね。九州大学の共同研究チームとさらに実験を重ねていくことで、光で屈曲する結晶を発見しました。棒状の結晶の近くに球状シリカの微粒子を置いて紫外線をあてると、結晶が瞬時に曲がって微粒子を弾き飛ばすことができます。微粒子は秒速10センチ程度の速さで弾き飛ばされました。マイクロサイズの小人の世界での野球に例えると、時速300キロくらいでボールが飛んだことに相当します。また90倍近

い重さの金の粒子も動かせるほどの力があるので、さまざまな応用が考えられるでしょう。この結晶を他の物質と組み合わせることで、マイクロマシンやマイクロロボットの人工筋肉などに使われるのも夢ではありません。

この研究成果は、イギリスの科学雑誌「Nature」にも発表され、世界から注目を浴びている。「絶対無理、できない、失敗」といった言葉が嫌いな小島先生は、いつもうまくいくと信じて実験を続けている。プラモデルを組み立て、うまくできたときの感動と同じように、機能する分子をつくる喜びと感動をいつも持ち続け、実験を通して感動を求めているからこそ、新しい発見に出会えるのだろう。



経営学研究科准教授 坂上学 著
「会計人のためのXBRL入門」



同文館出版 2007年2月
定価 本体2300円＋税

理学研究科教授 平澤栄次 著
「満月が大きく見える一体内時計が発振する暮らしのリズム」



大阪公立大学共同出版会 2006年11月
定価 本体800円＋税

文学研究科講師 増田聡 著
「聴衆をつくる 音楽批評の解体文法」



青土社 2006年8月
定価 本体2200円＋税

都市健康・スポーツ研究センター講師
松永智 共著
「入門運動生理学 第3版」



杏林書院 2007年4月
定価 本体2200円＋税

Books

市大教員の本を紹介しします

Sagesse

「裁判員とは何なのですか？」

最近、「裁判員」という文字をよく見ます。裁判員とは何なのですか。

平成一六年の三月に「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」が立法されて、裁判員制度というものが遅くとも平成二一年五月には始まります。これは、地方裁判所で審理される一定の重大な刑事事件について、一般の市民が裁判員として裁判所を構成し、起訴された被告人が有罪かどうか、有罪であれば刑をどう量定するのか、専門裁判官と一緒に決めてよという制度です。原則として裁判員六人と専門裁判官三人が「協働」して、ともに公開の証拠調べや弁論の手續に立ち会ったうえで、非公開の評議を行い、有罪・無罪の判決を下します。

この裁判員制度の導入によって、刑事裁判がもっと分かりやすく、もっと市民に近いものになることが期待されているのです。

どれどこの数のほうが
裁判員に選ばれるのですか。

裁判員制度対象事件は年間約三、五〇

〇件ほどだと推計されています。一つの事件ごとに原則として裁判員六名が選ばれますので、年間で約二一、〇〇〇人のひとが裁判員を経験する計算になります。

裁判員を経験したひとが
街にあふれることになると
しょうか。

裁判員は、二〇歳以上の衆議院議員の選挙権者から無作為で選ばれます。裁判員に選ばれる確率は、年間で約五、二〇〇人に一人の割合と試算されました。たとえば、大阪市立大学であれば平成一九年度の学部学生は一、二部合わせて七、二五八人、大学院生が二、〇七三人、教職員も同じ二、〇七三人であり、全員で一、四〇四人です。簡単に計算すれば、全学の学生・院生・教職員のうち、一つの年度で裁判員に選ばれたひとは二人しかいないこととなります。四年間でも合計八人です。学内で裁判員を経験したひとに出会うのは、なかなか大変でしょうね。

学生も裁判員に選ばれる
のでしょうか。辞退は
できないのですか。

学生であっても、二〇歳になれば裁判員に選ばれる可能性があります。一般の場合、裁判員を辞退することは原則としてできません。しかし、学生については、その身分を裁判所に對し証明すれば、裁判員を辞退することが認められます。学生には授業や実験、試験などがあるわけだから、裁判員として参加できなくてもやむを得ないというわけです。

ただし、裁判員として拘束される日数は、争いのない事件であれば一日、否認事件など争いがある事件でも、法廷は連日開廷されるので、五日以内となるでしょう。授業や試験に差し障りさえなければ、学生諸君にはぜひ裁判員を経験してほしいと思います。

なお、わたしは大学の法律学の教員であるために、裁判員の職務に就くことが法律で禁止されています。裁判員になるためには定年を待つほかなく、残念です。

法律を知らないわたしたち
に、裁判員が務まるので
しょうか。



法学研究科教授 高田昭正

それは大丈夫です。裁判員の仕事は、「事実の認定」と「法律の適用」と「刑の量定」ですが、事実認定と量刑については法律の知識を必要としません。法律適用については、裁判の過程で必要とされる法律的法判断はこれまでどおり専門裁判官が行うこととなりますし、審理の過程で裁判員にも法律的な知識を持っておいてもらったほうがよいというときは、専門裁判官が裁判員に分かりやすく説明することになります。裁判員には、あくまで、市民としての常識を発揮して裁判に臨むということが期待されているのです。

裁判員として刑事司法に参加するという貴重な機会を生かしてほしいと思います。

『都会にすむセミたち 温暖化の影響』

理学研究科教授
沼田英治

都会は人間によって徹底的に手を加えられた環境ですが、毎年夏になるとたくさんのセミの声が聞かれます。どうしてこのようにたくさんセミがすんでいるのでしょうか。大阪など西日本の都会では近年クマゼミが増加したといわれていますが、それは本当でしょうか。そのことと、地球規模の温暖化や都市ヒートアイランド現象との間には関係があるのでしょうか。これらの疑問には、残念ながら今でも明確な答えは得られていません。

私たちはこのような疑問に答えるために、多くの市民の方々に協力いただき、マーカー調査・抜け殻調査・網罟での飼育など、様々な方法で調査・研究を行っています。

この本では、セミはどいつ生き物かというお話から、大発生と温暖化との関係についての考察まで、これまでの研究の過程

をわかりやすく紹介しています。そして、将来の東京の様子についても、思い切った予想をしています。

都会では地球全体の温暖化よりもずっと急激な気温の上昇が見られます。たとえば、大阪や東京では過去五〇年間に年平均気温が一・五度も上昇しました。温暖化は、生物のカレンダーや分布にも少なからず影響を与えています。クマゼミが増えた理由と温暖化とは関係があるのでしょうか。読者のみなさんに、都会にすむセミの生活の一端を知っていただき、真実を明らかにしていく過程の喜びを私たちとわかちあわせていただければ、うれしく思います。科学的真理を探究するプロセスを楽しんでください。

理学研究科教授 沼田英治 共著
『都会にすむセミたち 温暖化の影響?』



海游舎 2007年7月
定価 本体1600円＋税



夏でも涼しい地下室は、現在資料室。朝鮮戦争時は、米軍の霊安室とされていた。



今も大学紛争時の落書きが残る時計塔内部。一号館封鎖は半年余りにおよんだ。



「仰げば尊し」一号館



一九四九年一〇月四日、関西全共闘最後の砦であった大阪市立大学の時計塔は放水攻撃をうけ、いよいよ陥落寸前であった。そんななか、上空を旋回する機動隊のヘリ「フター」の音をかいくぐるように、籠城する学生たちの歌いだした「仰げば尊し」が聞こえてくる……。

水俣病を追い続けたドキュメンタリー映画作家の土本典昭が、小川プロ（後に「ニッポン国古屋敷村」でベルリン映画祭の賞をとることになる小川紳介のプロダクション）で撮った映画「パルチザン前史」のワンシーンだ。この後、全国の全共闘運動は終息していく。同じ年、すでに陥落していた東大安田講堂、京大時計台同様、「塔」は大学そのもののシンボルであり、その落城は運動終焉の象徴でもあった。

杉本学舎の設計と建設

大学舎の改正により、それまで道府県レベルまでであった大学設置が市でも可能になった一九二八年、ただちに大学設置認可を得た大阪市は旧制大阪商科大学を開校。同時に学舎設立のための用地買収に乗り出す。しかし、当初は買収が難航、杉本町に



なお、伊藤は、一九三九年に大阪市を退職したのち、母校早稲田大学の講師などを経て、四九年、大阪商大他を統合して誕生した新制大阪市立大学の家政学部（現生活科学部）教授を迎えられ、杉本町に戻ってくることになる。以後、十年あまりを建築教育に捧げた。退職は五九年、亡くなる一年前のことである。

戦争の影響と大阪市立大学の誕生

一九四四年来、高商部および予科の両校舎を接収していた大阪海兵団が、終戦とともに撤収した四五年一〇月、商大校地は、こんどは進駐軍によって全面的に接収され、「キャンプ・サカイ」となった。このため、四九年に新制大阪市立大学が発足したときも、杉本校地は使えず、市内各地での分散授業を余儀なくされたのである。翌五〇年五月、学生たちによる校舎返還運動が起こったが、ひと月後に朝鮮戦争が勃発、総合病院施設となったキャンプ・サカイは米軍にとつていよいよ手放せないものとなった。ようやく五二年八月になって本館および図書館等が部分的に返還されたが、現在の旧教養地区、理系地区、グラウンド等が返還され、全面的に校地が回復されるのは、朝鮮戦争終結よりさらに二年後の五五年九月、



おいて学舎の建設がはじまったのは、ようやく一九三一年のことであった。以降、高商部本館（旧三号館。現在は全学共通教育棟に建て替え）、予科本館（現二号館）、体育館（現第一体育館）と順次着工され、一九三二年末、第三期工事において学部本館、すなわち現一号館が着工されることとなる。

この一連の学舎を設計したのは当時の大阪市土木部建築課であるが、中心となったのは、設計係主任技師の伊藤正文であった。彼は、同僚の新名（しんみょう）種夫らとともに「日本インターナショナル建築会」の主要メンバーであり、同会の主張である「インターナショナル」すなわち「合理的普遍性」と「ローカリティ」すなわち「自然や風土による個性」との融合は、この学舎の設計にも、幾何学的構成（インターナショナル・モダニズム）+ 庇（ローカリティ）として反映されている。その意義により、二〇〇二年には国の登録有形文化財にも指定された。

接收開始からおよそ十年ぶりのことであった。

大阪市立大学のシンボルとして

返還後の一号館は、事務局、商経法文の学部事務室および教室となり、その後、文系学部棟が順次整備されるにつれ、事務室および教室のみとなった。そして二〇〇四年にロースクールが開設されると、そのための自習室が設けられ、法人化とともに学長室・副学長室が学術情報総合センターに移転、現在は一階が事務部門、ロースクール院生の自習室、二階以上は教室となっている。

大学紛争時には荒廃したものの、現在はすっかり修復され、教室内の設備も整いつつある。現在、大学シンボルマークのモチーフともなっている一号館は、じつと、いつの時代も大阪市立大学のシンボルでありつづけてきた。一九三四年の竣工以来七十三年間、さまざまな歴史の証人として一号館は建ちつづけている。

文・写真／文学研究科准教授 福島祥行



◆10月以降の学生募集要項配付情報！

学生支援課入試担当の窓口で、下記に記載の時期に配付予定の他、郵送でもご請求いただけます。

■学部

- 一般選抜：11月下旬
- 私費外国人留学生：11月下旬
- 科目等履修生：2月上旬

■大学院

- 前期博士課程（修士課程）
- 社会人特別選抜（経営学研究科、理学研究科物質分子系専攻）：11月下旬
 - 創造都市研究科（冬季募集）：10月下旬
 - 科目等履修生：2月上旬
- 後期博士課程
- 一般選抜・外国人留学生特別選抜（経営学研究科、経済学研究科、法学研究科、文学研究科、理学研究科、工学研究科、生活科学研究科）：11月下旬
 - 一般選抜（医学研究科・第2次）：11月下旬
 - 社会人特別選抜（文学研究科、理学研究科、工学研究科、生活科学研究科）：11月下旬
 - 創造都市研究科：10月下旬

◆資料請求方法

■本学に直接郵送で請求

- 封筒の表に赤色で請求する資料名を記入し、裏には、差出人の郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入。
 (例) 平成20年度大学院後期博士課程社会人入試文学研究科の学生募集要項を請求する場合：「平成20年度大学院後期博士課程社会人入試文学研究科学生募集要項請求」と封筒の表に赤色で記入する
- 返信用封筒（角形2号/24.0cm×33.2cm）に390円分の切手を貼り、受取人の郵便番号・住所・氏名を明記し、上記1の封筒に同封。
- 請求先
 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
 大阪市立大学学生支援課入試担当

なお、学部一般選抜については下記の方法でも入手できます。

■本学のホームページから（12月より受付開始）

本学のホームページ（<http://www.osaka-cu.ac.jp/>）からテレメールによる請求ができます。

■テレメールで（9月より案内開始）

- 以下のインターネット（パソコン・携帯）または電話へアクセス。
 ◆インターネット <http://telemail.jp>
 ◆自動音声応答電話（一般電話）06-6222-0102（IP電話）050-2015-055
 - 資料番号『585050』を入力またはプッシュ。
 - あとはガイダンスに従ってください。
- ※発送開始日以降は、受付から約2日で資料が送付されます。

■郵便局で（10月より案内開始）

郵便局の窓口から請求できます。郵便局にある『全国 国公立大学・短期大学、私立大学・短期大学募集要項（願書）請求申込書』郵便局専用入学願書カタログに必要事項をご記入のうえ、送料と払込手数料100円を添えて、最寄りの郵便局窓口でお申し込みください。発送開始日以降は受付から1週間程度で送付されます。
 なお、請求申込書は高等学校で入手できる場合もあります。

◆よくあるご質問

過去の入試問題を入手したいのですが

学部特別選抜、学部編入学選抜、及び大学院入試の過去問題については、各学部事務室において閲覧・コピーをすることができます。閲覧期間を設けている場合がありますので、事前に学部事務室へお問い合わせください。

なお、郵送での対応はいたしておりませんので、ご了承ください。

※学部一般選抜入試の過去問題につきましても、閲覧対応いたしておりません。市販されている問題集等をご参照ください。

◆先輩からのメッセージ

文学部人間行動学科社会学コース 2回生 尾崎久美子

私は中学校のときからずっと数学が苦手科目だったので、国立大学を志望していた私にとって、センター試験の数学は非常に大きな課題でした。

そんな私の数学の克服法は、とにかく問題を解く事でした。一度間違えた問題に印をつけておき、苦手な範囲の問題を何度も復習し、繰り返し問題を解くうちに、問題のパターンが掴めてきて、問題文を読むとすぐに計算式が頭に浮かぶようになりました。その結果センター試験では平均点近く得点でき、得意科目であった英語と国語の足を引っ張ることはありませんでした。

受験生の皆さん、努力は必ず報われます。最後まで諦めずに頑張ってください。



Road to OCU

市大への道



現在、大阪市立大学馬術部には二四名の部員と二頭の馬が所属し、週六日間の練習に励んでいます。
 部活動は月曜日が休みですが、馬の世話はもちろん年中無休。「朝が早いので、辛い時もあります。また世話だけでなく、部費を稼ぐために馬術部のみならず競馬場でのアルバイトをしているので忙しいです。
 私は現在、工学部建築学科の三回生ですが、特に製図などの課題が出た時は、部活動と

勉強の両立の大変さを実感しますね」と主将の宝満和仁さん。
 生き物を扱うので苦労も多い部活動ですが、馬の話をしている部員の皆さんは、いきいきと語り口も熱い！
 「馬は仕草が可愛いんです。口をパクパクしたり。それから、ヒモをつけなくても後ろから歩いて付いてきてくれるときは、可愛い！」と思えます。「他の馬にいたずら

■馬術部からのニュース

今年11月に東京で行われる全日本学生馬術大会に、第2部経済学部4回生の長澤優さんと杉翼号が出場することが決定しました。市大馬術部の出場は2年連続です。

大阪市立大学馬術部のますますの活躍をご期待ください！

らしては蹴られている馬、わがままな馬、おとなしい馬と、本当に個性豊かです。食べ物好みや、触られると嫌な場所も馬によって違っています。」
 皆さんの言葉と笑顔から、「馬が好き！馬術部が好き！」という気持ちが伝わってきます。
 ほとんどが初心者で入部する馬術部のメンバーですが、馬と馬術部を愛する先輩方に支えられながら、さまざまな体験を通じて、馬との信頼関係を築いていきます。



写真/大阪市立大学写真部

も、この言葉と同じことを卒業生ひとりひとりが感じている証拠なのでしょう。休日「コーチとして練習に参加して下さる卒業生もいるそうです。」
 馬と人間の絆、そして馬を通じて培われた人間同士の絆の中で、馬術部の部員たちは乗馬技術の他にも多くのことを学んでいるようです。

平成19年度 OCUA クラブ表彰

去る7月7日(土) 大阪市立大学スポーツアシエーション(OCSA)の総会があり、平成19年度のクラブ表彰が行われましたので紹介します。
 このクラブ表彰は今年で17回目を迎えます。この表彰を期に本学体育系クラブのより一層の活躍を期待しています。

- 最優秀クラブ賞(学長表彰)
 - 医学部水泳部
 - 西日本医科学学生総合体育大会
 - 男女総合2位、女子総合2位
- 最優秀選手賞(OCUSA 会長表彰)
 - 森山 美智子(医・2)【陸上部】
 - 西日本医科学学生100m、200m2位
 - 走幅跳び優勝(大会新)
- 新人賞(教育推進本部長表彰)
 - 袴田 康佑(法・2)【卓球部】
 - 全国国公立卓球大会：男子Sベスト16
- 優秀クラブ賞(体育会会長表彰)
 - 競技ダンス部
 - 六大学戦※団体総合2位(1部昇格)
 - 2・3回生の部 団体総合1位
 - (※六大学戦は関西の上位6大学が対戦する大会です。)
- 優秀選手賞(体育会幹事長表彰)
 - 古川 枝里子(医・4)【医学部水泳部】
 - 西日本医科学学生総合体育大会
 - 100m・200m平泳ぎ優勝
- 優秀選手賞
 - 木藤・山本組(商II・5)【競技ダンス部】
 - 冬季全日本戦バンドフレ2位
- 特別賞(OCUSA 特別表彰)
 - 団体 日本拳法部
 - 全国国公立大学選手権大会優勝
 - 個人 伊地知 怜子(医・4)【空手道部】
 - 全国国公立大学選手権大会 個人形 準優勝

— 馬術部

市大生といえば「地味でまじめ」で「苦学生」、というイメージが長い間もたれてきた。しかし、そのイメージも大きく変わってきた。今年の新入生に入学早々、法人運営本部総務課が入学動機や市大イメージについてアンケート調査を行った(回答率87%)。それによると、入学前に本学に対してもっていたイメージのトップ3は「庶民的」(33%)、「明るく」(33%)、「自由(27%)」であり、「都会的」(25%)がこれに続いている。「地味」は13%にすぎない。「自由と在野の精神」を特色としてきた伝統イメージに加え、「明るく都会的な大学」というポジティブな市大像が生まれてきたのはうれしいことである。この10年ほどの間に、学術情報総合センターや全学共通教育棟など教育環境が整備され、また教職員が研究とともに教育に力を注いできたことがあらわれであると思う。

けれども、そうした大学イメージを単なるイメージにとどまらせず実質的なものにするのは学生諸君の責任でもある。地味であってもそこにきらりと光る個性があるほうが私は好きだ。仄聞するところによると、最近の学生諸君は授業にはきちんと出席はするが、何のために授業に出ているのか理解に苦しむことがあるそうだ。大学の役割



写真/大阪市立大学写真部

The Office of President

市大生に望むこと

大阪市立大学長 金見暁嗣

は学生がその在学期間中に自由に自主的に学べる環境(優秀な教職員、豊富な図書、多様なサークル)を整えることにあり、学生諸君の役割はそれらの資源を存分に利用することである。大学の存在意義はそういうところにある。

そのうえで、市大生にはこころの余裕をもってほしい。長い人生には失敗はつきものである。たとえ努力が報われなくても、それを小さな不運と笑い飛ばすようなこころのゆとりがほしい。日本人のきわだった特徴は、社会で成功する条件として、個人の努力や才能以外に運やチャンスをあげることである。このような見方の強い人は、うまくいった場合はすべて自分の能力の結果だと信じ込む。逆に悪い結果になったときは、その結果をもたらした責任が自分にあるときさえ、人のせいにしてしまう。私たちはこの社会の不公平やいびつさに傷つかな

いように、精神を鍛えておくことが必要だ。そのことよって、車のハンドルの遊びと同じように、こころの余裕が生まれてくる。そのためには受動的な大学生活ではなく、なにごとにも積極的にチャレンジし、将来、さまざまな仕事に対応してゆける幅広い知識と教養を身につけることが望まれる。皆さんといっしょに柔軟でしなやかな市大生イメージをつくっていきたいと思っています。

Information

お知らせ

公開講座・イベント情報

申込方法など、詳しくは担当までお問い合わせください。
特に記載がない場合、受講料は無料ですが、テキスト代実費負担の場合があります。申し込み多数の場合は抽選となります。

◆117回市民医学講座

【新型ヒトインフルエンザウイルスの出現とトリインフルエンザウイルスの関係】
【講演者】 医学研究科教授 小倉 壽
【開催日】 平成19年11月13日(火)
【時間】 18時10分〜20時
【対象】 18歳以上の方
【申込締切】 平成19年10月29日(月)
【会場】 医学部医学情報センター
【お問い合わせ先】 医学部医学情報センター
(電話) 06・66645・2742

◆文化交流センター・野村証券共催講座

現役証券会社社員が、お金・投資について、初心者向けに解説します。
【開催日】 平成19年11月16日(木)、22日(木)、29日(木)
【時間】 18時30分〜20時
【対象】 16歳以上の方
【申込締切】 平成19年10月26日(金)
【会場】 文化交流センター
【お問い合わせ先】 気軽にになわコール
(電話) 06・48860・7285

◆大学祭
「今」の市大生のパワーを感じてください!
● 銀杏祭(第1部)
11月1日(木)〜11月4日(日)
パレードやライブ、模擬店など、大人から子供まで楽しめます。
● ふくろう祭(第2部)
11月10日(土)〜11日(日)
「ふれあい動物園」など、家族連れの方も楽しめる内容となっております。

市大ニュース

◆大阪府立大学と包括連携協定を締結しました

大阪府立大学と大阪府立大学は、大都市圏・大阪に立地する公立の大学として、より活発な相互交流を推進するため、両大学間で協議会を設置することになりました。この包括連携協定の締結を記念して、6月に行われた大阪府立大学・大阪府立大学総合体育大会のソフトボールの試合において、大阪府立大学の南学長と本学の金児学長が始球式を務めました。(南学長がキャッチャー、金児学長がピッチャー)



◆大阪市との「新時代パートナーシップ協議会」を設置しました
大阪市と大阪府立大学は、連携をさらに強化し、双方の経営課題の解決や新たな大阪づくりに協力して取り組む必要があることから、双方のトップ(市長・理事長兼学長等)が検討・協議を行う「新時代パートナーシップ協議会」を設置しました。

◆平成19年度「現代G.P.・特色G.P.」等の採択について

文部科学省は、「国公立私立大学を通じた大学教育改革の支援」として、各大学における大学改革の取組が一層推進されるよう、国公立私立大学を通じた競争的環境の下で、特色ある優れた取組を選定・支援しています。平成19年度、本学では2つのプログラムが採択されました。(8月現在)

●「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(略称:現代G.P.)

経営学研究科「インタラクティブ型キャリア教育方法の確立—BRICを通じて」
経営学系(商学部)の専門教育とキャリア教育との融合—

●「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」
医学研究科「子育てとキャリアアップの両立をめざして—地域と連携した女性医師・看護師支援プログラムの構築—」

◆病院ボランティア募集

大阪市立大学医学部附属病院では、病院ボランティアを募集しています。
病院ボランティアとしての活動には、特別な資格は必要ありません。患者の役に立ちたいと思っておられる方であれば、どなたでも活動することができます。



都市で学び 夢をつかむ

大阪市立大学 OSAKA CITY UNIVERSITY

■杉本キャンパス(商.経.法.文.理.工.生活科 各学部・大学院各研究科、本部)
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

■阿倍野キャンパス(医学部・大学院医学研究科、医学部附属病院)
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

■梅田サテライト(大学院創造都市研究科、文化交流センター)
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

●大阪市立大学ホームページ <http://www.osaka-cu.ac.jp>

2007年10月

■ご意見・ご感想募集
本誌へのご意見・ご感想を募集しています。はがきに(1)氏名(2)住所(3)年齢(4)職業(5)本誌の入手先(6)一番おもしろかったコーナー(7)今後どのような記事が読みたいかを明記のうえ、下記までお送りください。抽選で毎月3名様に市大グッズをプレゼントします。

<宛先>
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学法人運営本部総務課 広報担当宛

■発行
公立大学法人 大阪市立大学
法人運営本部 総務課
〒558-8585
大阪市住吉区杉本3-3-138
TEL 06-6605-2011
FAX 06-6692-1295
MAIL koho2007@osaka-cu.ac.jp



写真/大阪市立大学写真部

◆オープンキャンパスを開催しました
今年もたくさんの方にご来場いただきました。

【活動内容】
・外来を中心とした患者さまへの院内案内
・車椅子をお使いの患者さまやお身体の不自由な患者さまの移動介助
・縫製作業(点滴着、ストーマ袋等の作成)など

【活動時間】
平日の午前8時30分から午後2時頃までの間で、1日3時間程度と考えています。ご希望の活動時間につきましては、相談のうえ決めさせていただきます。

【お問い合わせ先】
大阪市立大学医学部附属病院
庶務課・忍・松井
電話：06・66645・2711
FAX：06・6632・7114